



医療と健康をつなぐ  
テクノロジー

第58期事業報告書  
フクダ電子株式会社

**2005.03**

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

# 「お客様本位」

国産心電計の普及から65年。

フクダ電子は日本の医療技術の進歩とともに歩んでまいりました。  
時代とともに医療機器やシステムは高度化・複合化を遂げましたが、

その中で変わらないもの——。

それは創業の精神「お客様本位」の姿勢です。

この精神・姿勢はフクダ電子がお客様に信頼を得る源泉となり、  
いまでも私たちの中に脈々と受け継がれています。

フクダ電子はこれからも、創業の精神を忘れず  
社会的使命に徹し、医療機器を通じて医学の進歩、  
人々の健康に寄与する企業として、  
明日へと歩み続けます。

## ごあいさつ



代表取締役社長  
福田 孝太郎

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社第58期（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）  
の事業報告書をお届けするにあたり謹んでご挨拶申し上げます。

当社は循環器系医療機器メーカーとして創業以来65年に亘り、  
皆様の健康への願いをお手伝いしてまいりました。近年、その事  
業領域を呼吸器系へと拡大し、地域に密着した在宅医療事業にも  
注力し、さらにはチャレンジ精神を失わず、ITの進展に即応したお  
客様のさまざまなニーズに対応するソリューション営業の展開な  
どを行ってまいりました。

今後もお客様との信頼関係を大切にすることを基盤に、国内は  
もとより「世界で信頼されるブランド」を目指し、世界のお客様  
にフクダ電子の製品をお届けいたします。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご理解と変らぬご支  
援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成17年6月

## 株主様への利益還元について

当期の利益配当金につきましては、1株につき50円の普通配当に、創業65周年を記念し、5円の記念配当を合わせた55円とさせていただきますと存じます。

また、すでに中間配当金として創業65周年記念配当5円を含む1株につき25円をお支払いいたしておりますので、年間の配当金は1株につき80円（創業65周年記念配当10円を含む）となります。

1株当たりの配当金

**80円**

（利益配当：55円  
中間配当：25円）

※それぞれ上記配当には、創業65周年記念配当5円を含んでおります。

医用電子機器メーカーとして  
安心・安全・快適を基軸として  
「お客様に信頼される企業」となる

2010年度 業績目標

連結売上高 1,000億円  
連結経営利益 100億円  
連結海外売上高 130億円

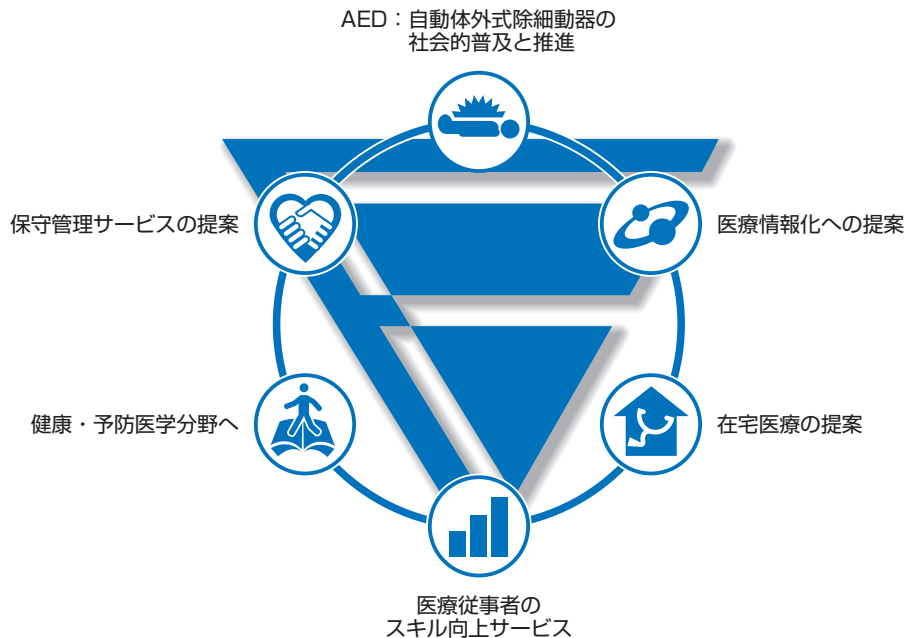
2004年度 業績

連結売上高 746億円  
連結経営利益 71億円  
連結海外売上高 41億円

当社は、「社会的使命に徹しME機器の開発を通じて医学の進歩に寄与する」を経営方針として掲げ、グループ総力を挙げ、人々の健康への願いをお手伝いしてまいりました。

創業65周年を迎え、上記に示すグループ目標を新たに策定し、株主様をはじめとする各位のご期待にお応えすべく、「お客様に信頼される企業」を目指します。

# 新たな医療コンセプトへの挑戦と 時代の必要性を発展的に提案します。



## AED(自動体外式除細動器)の社会的普及と推進

2004年7月に自動体外式除細動器の一般使用が認められました。



## 医療情報化への提案

最新のIT技術を用い、お客様の安心を追求します。



## 在宅医療の提案

豊富な品揃えときめの細やかなサポートを通じ、お客様のQOL(生活の質)の向上をお手伝いします。



## 医療従事者のスキル向上サービス

医療従事者のスキル向上サービス、情報提供を通じ顧客満足度を高めます。



## 健康・予防医学分野へ

創業以来、人々の健康への願いをお手伝いしてまいりました。



## 保守管理サービスの提案

病院経営サポートシステム、医療機器の点検管理をご提供。独自機能の安全点検システム「MARIS」とフクダ電子グループが強かにサポート。

## デジタルホルター記録器 FM-800



患者様の生活に密着し、1台3役こなせる高性能を誇るコンパクトな携帯型の検査器です。

狭心症などに関連した心電図の検査と、血圧の測定、そして血液中に溶け込んでいる酸素濃度の測定が行えます。また、患者様ご自身も測定中の情報を身近で確認できる、大型液晶ディスプレイを装備しています。

## 在宅用酸素濃縮器 FH-22/2L

体に必要な酸素を十分に取込めない慢性呼吸不全症の患者様がご自宅で酸素を吸引できる在宅酸素療法に使用します。このFH-22/2Lは従来の機種に比べて、<小型軽量><低消費電力><低騒音>を実現した事により、患者様の治療による負担を軽減し、QOL（生活の質）を向上いたします。



## ヘリコバクター・ピロリ菌感染診断装置



ヘリコバクター・ピロリとは、胃の粘膜中に生息している細菌です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃癌等の消化性潰瘍の原因となっており、日本で約6,000万人が感染していると推測されています。その中でも約300万人以上が除菌療法が必要であると言われていましたが、今までは、患者様に負担のかかる胃カメラ内視鏡検査等の侵襲的な方法でしか診断ができませんでした。

当社が新しく取り扱うヘリコバクター・ピロリ菌感染診断装置は検査試薬を飲み、呼気バックに息を吹込むだけで判定できる患者様に優しい非侵襲な検査法であります。なお2000年から尿素呼気試験法が施行され、保険適用が認められました。

## お客様研修センターを 設置いたしました

平成16年9月に、当社春木町ビルに『お客様研修センター』が設置され、医療に携わる方々を対象に数々の講習会を開催しております。定員は最高で50人ですが、毎回定員をはるかに超える応募を頂いております。

今後は、さらに超音波講習会をはじめ医療に従事する皆様のご要望にお応えできるよう、さまざまな講習会の実施を計画しております。



## シミュレーションルームをオープン



平成16年10月、当社初となる常設展示室『システム製品シミュレーションルーム』が春木町ビルの1階にオープンしました。

当社の主軸システム製品である生理検査室向け部門システム

(Hi-MEDION、EFS-8000) 並びに、急性期患者情報システムMetaVision。これらを主要メーカーの電子カルテシステムと連携し利便性を高めた当社のビジョンモデルを実演展示しております。来たる医療のネットワーク化に向けたテーマ性の高い内容で、来場のお客様からご好評を得ております。

## 株式会社ケアコムとの ナースコール連携



病棟内で使用される各種医療機器（人工呼吸器、生体情報モニター、セントラルモニター、AED(※)）のアラームを株式会社ケアコムのインテリジェントナースコールシステムにて集中管理します。これにより、異常が生じた際には医師・看護師のPHS端末へリアルタイムでアラームが転送され患者様の安全を守ります。

※自動体外式除細動器

## オムロン携帯型心電計への技術供与



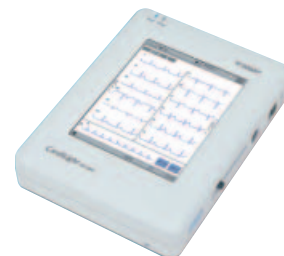
当社の技術供与により、オムロンヘルスケア株式会社より、医療現場で有用な心電図波形の表示を実現した携帯型心電計が発売されました。

永年に亘り蓄積した当社の技術を基に共同開発を行い、動悸などの症状をその場で記録し心電図データを医師に診断してもらう事により、心疾患の早期発見・治療に役立てることが出来ます。



## ペーパーレス心電計 ESP-2000/ESP-2000S

生命保険加入者の心電図検査への利用や、患者様宅への往診時、また緊急時の屋外使用などにも幅広く使用できる携帯型ペーパーレス心電計です。記録用紙を搭載せずに、本体内部メモリにデータを自動的にバックアップを行い心電図の収録後に、CFカード媒体やIT通信を利用して、再生装置側にてプリントアウトが行えます。



## 多機能心電計 FCP-7101/FX-7102

部品生産の一部を中国北京工場に移し、低コスト化を実現したコンパクトタイプの心電計です。国内販売のみならず、当社の高品質な心電計とその高性能な解析技術を海外輸出販売に活かせる期待のニューモデルです。



## セントラルモニター DS-7520

病棟ベッドにいる患者様の生体情報をナースセンターにて集中的に管理するモニターです。1台で2人の患者様を表示できますので、効率の良い管理が行えます。

心電図や呼吸などを表示でき、また、加圧式の血圧測定は、本モニターからの遠隔操作で開始指示を行うことも可能ですので、看護師の皆様の負担を軽減します。







## 免疫発光測定装置 パスファースト

血液検査により心不全の重症度評価に威力を発揮するBNP検査は、今まで検査センターに出検し、一般的には検査結果の確認に3~5日を要していました。パスファーストでは全血検体で測定が可能となり、測定結果も17分以内（※）で確認できるため、診断・治療の効率向上に威力を発揮します。また、設置場所と使用者を選ばず、検査室はもちろんの事、外来・病棟・ICUなどあらゆる場所でBNP検査が可能となります。

（※測定時間は諸条件により若干異なる場合があります）



## 在宅用人工呼吸器 クリーンエアVSセレナ

当社がすでに事業展開を行っている在宅酸素療法（体に上手く酸素が取り込めない患者様が家庭で酸素を吸入できる自宅療法）の実施においても、改善がみられない方や、睡眠時のみ酸素濃縮器では酸素が不足する方がいらっしゃいます。その改善方法の一つとして在宅にてマスクを使用し圧力にて肺に空気を送り込む人工呼吸器療法にお使い頂く装置です。



## 造影用カテーテル トレール3Fr

心臓カテーテル検査に使用する細く長いストロー状のディスプレイ管です。心臓の状態や血管の詰まりをX線撮影する場合に必要な造影剤溶液の注入時と噴射に使用します。



## 連結財務諸表

## ■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期	科 目	当 期	前 期
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在		平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
<b>■ 資産の部</b>			<b>■ 負債の部</b>		
<b>流動資産</b>			<b>流動負債</b>		
現金及び預金	26,721	28,451	支払手形及び買掛金	14,527	11,188
受取手形及び売掛金	23,070	19,501	短期借入金	3,637	6,838
有価証券	599	499	一年以内償還予定社債	—	765
たな卸資産	13,332	12,969	未払法人税等	702	1,837
繰延税金資産	1,701	2,024	賞与引当金	1,524	1,498
その他	1,827	1,964	訴訟和解引当金	—	1,000
貸倒引当金	△ 212	△ 200	新株引受権	—	45
<b>1 流動資産合計</b>	<b>67,041</b>	<b>65,211</b>	その他	2,052	1,816
<b>固定資産</b>			<b>流動負債合計</b>	<b>22,443</b>	<b>24,990</b>
<b>有形固定資産</b>			<b>固定負債</b>		
建物及び構築物	3,631	3,479	長期借入金	205	89
機械装置及び運搬具	214	335	退職給付引当金	3,155	3,129
工具・器具及び備品	5,975	5,529	役員退職慰労引当金	1,272	1,241
土地	5,236	5,237	連結調整勘定	3	—
建設仮勘定	105	344	その他	19	11
<b>有形固定資産合計</b>	<b>15,162</b>	<b>14,927</b>	<b>固定負債合計</b>	<b>4,655</b>	<b>4,472</b>
無形固定資産	1,310	735	<b>3 負債合計</b>	<b>27,098</b>	<b>29,462</b>
<b>投資その他の資産</b>			<b>■ 少数株主持分</b>		
投資有価証券	8,254	5,552	少数株主持分	9	11
繰延税金資産	4,796	6,511	<b>■ 資本の部</b>		
その他	2,870	3,270	資本金	4,621	4,387
貸倒引当金	△ 8	△ 142	資本剰余金	9,851	8,684
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>15,913</b>	<b>15,191</b>	利益剰余金	57,408	54,610
<b>2 固定資産合計</b>	<b>32,386</b>	<b>30,854</b>	その他有価証券評価差額金	1,389	761
			為替換算調整勘定	△ 21	△ 3
			自己株式	△ 929	△ 1,847
			資本合計	72,320	66,591
			<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>99,427</b>	<b>96,066</b>
<b>資産合計</b>	<b>99,427</b>	<b>96,066</b>			

## POINT 1

売上の伸びにより、売掛金及びたな卸資産が増加したため、前期末に比べ18億30百万円の増加となりました。

## POINT 2

取引先の株式を購入したことや、グループ管理システム導入などによって、前期末に比べ15億31百万円の増加となりました。

## POINT 3

支払手形及び買掛金が増加したものの、短期借入金の返済などがあったため、前期末に比べ23億63百万円の減少となりました。

## ■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期		前 期	
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで		平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	
<b>I 売上高</b>	74,659		73,007	
売上原価	40,892		40,090	
売上総利益	33,767		32,917	
販売費及び一般管理費	26,546		25,868	
営業利益	7,220		7,048	
営業外収益	290		507	
受取利息	6		13	
受取配当金	77		304	
その他	206		189	
営業外費用	389		141	
支払利息	55		72	
為替差損	100		48	
持分法投資損失	207		—	
その他	26		21	
経常利益	7,121		7,414	
特別利益	462		143	
投資有価証券売却益	76		118	
固定資産売却益	6		—	
保険解約益	360		24	
新株引受権戻入金	17		—	
特別損失	567		1,389	
固定資産売却損	2		179	
固定資産除却損	56		45	
ゴルフ会員権評価損	—		5	
投資有価証券評価損	12		15	
ゴルフ会員権貸倒損失	27		—	
解約違約金	468		—	
訴訟和解引当金繰入額	—		1,000	
早期割増退職金	—		143	
税金等調整前当期純利益	7,016		6,169	
法人税、住民税及び事業税	1,343		3,528	
法人税等調整額	1,594		△ 763	
少数株主利益	3		2	
当期純利益	4,075		3,402	

### POINT 1

熾烈な価格競争が続く中、強力な販売体制のもと全社をあげて営業活動に努め、前期比2.3%増の746億59百万円の売上高となりました。

## ■ 連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
<b>■ 資本剰余金の部</b>		
資本剰余金期首残高	8,684	8,684
資本剰余金増加高	1,166	0
自己株式処分差益	904	0
新株引受権行使による新株の発行	262	—
資本剰余金期末残高	9,851	8,684
<b>■ 利益剰余金の部</b>		
利益剰余金期首残高	54,610	51,837
利益剰余金増加高	4,075	3,402
当期純利益	4,075	3,402
利益剰余金減少高	1,277	628
配当金	927	554
役員賞与	86	70
(うち監査役賞与)	(1)	(1)
持分法適用会社増加に伴う利益剰余金減少額	257	—
従業員奨励及び福利基金	5	4
利益剰余金期末残高	57,408	54,610

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	6,869	9,421
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,915	△ 3,545
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,487	△ 3,099
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	△ 33
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,531	2,742
現金及び現金同等物の期首残高	28,107	25,364
現金及び現金同等物の期末残高	26,576	28,107

### POINT 1

たな卸資産が増加に転じたこと等により前期比25億52百万円の減少となりました。

### POINT 2

取引先の株式購入等により前期比23億70百万円の支出の増加となりました。

### POINT 3

短期借入金の返済が多かったものの、当期において自己株式売却による収入が25億86百万円発生したため前期比6億12百万円の支出の減少となりました。

# 単体財務諸表

## ■ 単体貸借対照表 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成17年3月31日現在	平成16年3月31日現在
<b>■ 資産の部</b>		
流動資産	51,933	52,976
現金及び預金	19,079	21,136
受取手形	25	20
売掛金	19,004	17,800
たな卸資産	6,193	7,053
その他	8,529	7,659
貸倒引当金	△ 899	△ 693
固定資産	34,526	23,238
有形固定資産	15,268	7,856
無形固定資産	1,219	643
投資その他の資産	18,037	14,739
投資有価証券	8,383	5,595
子会社株式	4,438	4,523
その他	6,473	6,089
貸倒引当金	△ 4	△ 132
投資評価引当金	△ 1,253	△ 1,337
資産合計	86,459	76,215
<b>■ 負債の部</b>		
流動負債	22,810	18,635
支払手形	6,495	5,343
買掛金	6,295	5,027
未払法人税等	35	855
その他	9,984	7,408
固定負債	2,115	2,112
退職給付引当金	1,125	1,137
その他	990	975
負債合計	24,926	20,747
<b>■ 資本の部</b>		
資本金	4,621	4,387
資本剰余金	9,851	8,684
利益剰余金	46,601	43,483
株式等評価差額金	1,388	759
自己株式	△ 929	△ 1,847
資本合計	61,533	55,467
負債・資本合計	86,459	76,215

## ■ 単体損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
営業収益	49,915	48,536
営業費用	48,296	44,819
営業利益	1,619	3,716
営業外収益	1,388	1,540
営業外費用	167	166
経常利益	2,840	5,091
特別利益	526	143
特別損失	841	1,176
税引前当期純利益	2,525	4,058
法人税、住民税及び事業税	11	1,890
法人税等調整額	855	△ 819
当期純利益	1,659	2,987
前期繰越利益	2,047	2,326
子会社との合併による未処分利益受入額	1,839	—
中間配当額	465	277
当期末処分利益	5,080	5,037

## ■ 利益処分

(単位: 百万円)

	当 期	前 期
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
当期末処分利益	5,080	5,037
固定資産圧縮積立金取崩額	—	0
合計	5,080	5,037
これを次のとおり処分いたします。		
利益配当金	1,054	461
(1株につき55円)		
役員賞与金	45	28
(うち監査役賞与金)	(1)	(1)
別途積立金	1,500	2,500
次期繰越利益	2,479	2,047

- (注) 1. 平成16年11月19日に465,418,625円(1株につき25円)の中間配当を実施いたしました。
2. 利益配当金は、自己株式410,855株(うち122,600株はストックオプションを目的として取得したものであります。)を除いて計算しております。

当期に連結子法人等でありましたエフア  
ンドエル(株)は、当社と合併致しました。

## 株式の状況

■ 発行する株式の総数 ..... 30,000,000株

■ 発行済株式の総数 ..... 19,588,000株

(注) 発行済株式の総数は、新株引受権の権利行使により前期末に比べて184,000株増加しております。

■ 株主数 ..... 2,146名

### ■ 自己株式の取得状況

・平成16年12月16日に開かれた取締役会の自己株式取得の決議に基づきまして、平成17年3月9日までに207,900株取得いたしました。

### ■ 自己株式の処分状況

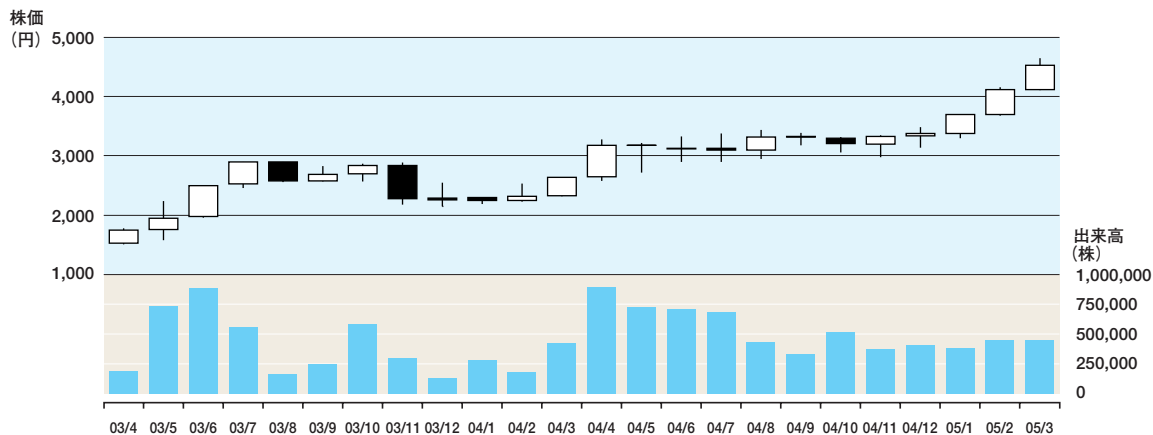
・当社と取引先との関係強化を目的とし、646,800株を処分いたしました。  
 ・自己株方式によるストックオプションの行使により、82,400株を処分いたしました。

### ■ 自己株式の保有状況

・平成17年3月31日現在の保有自己株式数は以下のとおりとなっております。

区 分	株式数
発行済株式総数	19,588,000株
保有自己株式数	410,855株

## 株価の推移

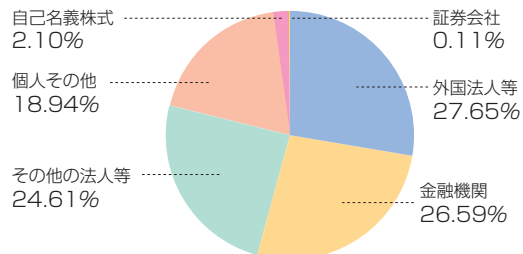


## 大株主

株 主 名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
アトミック産業株式会社	2,438	12.73
エムエルアイイーエフジーノドリーティカस्टディーアカウント	1,845	9.63
東京エンタープライズ株式会社	1,447	7.56
みずほ信託 退職給付信託 東京都民銀行口再信託受託者資産管理サービス信託	922	4.81
株式会社みずほ銀行	778	4.06
株式会社東京三菱銀行	725	3.79
メロンバンク トリーティークライアンス オムニバス	718	3.75
日本生命保険相互会社	702	3.67
ザバンクオブニューヨーク トリーティークラスティックアカウント	603	3.15
福田順子	550	2.87

## 所有者別分布状況

(%は出資比率)



## ■ 会社の概況（平成17年3月31日現在）

- 設立年月日 昭和23年7月6日
- 資本金 46億2,160万円
- 事業内容 医用電子機器の製造・販売および輸出入
- 主な取引銀行 株式会社東京都民銀行  
株式会社東京三菱銀行  
株式会社みずほ銀行  
株式会社北陸銀行  
株式会社UFJ銀行  
商工組合中央金庫  
住友信託銀行株式会社

## ■ 取締役および監査役（平成17年6月29日現在）

代表取締役社長	福田孝太郎
専務取締役	高橋隆三
常務取締役	藤原潤三
取締役	瀬川雅行
取締役	岩本吉良
取締役	有本川修
取締役	尾崎健治
常勤監査役	小川吉正
監査役	岡本芳法
監査役	伊澤辰雄
監査役	飯柴次

## ■ 主な提携・仕入会社

シーメンス社（ドイツ）  
マッケ社（ドイツ）  
セント・ジュード・メディカル社グループ（アメリカ）  
レスピロニクス社（アメリカ）  
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン  
ソニー株式会社  
コニカミノルタグループ  
富士通株式会社  
株式会社堀場製作所  
TDK株式会社  
ゲンゼ株式会社

## ■ 海外子法人

FUKUDA DENSHI USA, INC.  
〔アメリカ・ワシントン州シアトル〕  
資本金：US\$ 3,300,000  
事業内容：医用電子機器開発・製造  
出資比率：100%

北京福田電子医療仪器有限公司  
〔中国・北京〕  
資本金：US\$ 3,900,000  
事業内容：医用電子機器製造・販売  
出資比率：98%

## ■ 主な納入先

全国各大学医学部付属病院  
官公私立病院  
診療所  
その他医療機関

## ■ フクダ電子グループ

フクダ電子北海道販売株式会社  
フクダ電子北東北販売株式会社  
フクダ電子南東北販売株式会社  
フクダ電子新潟販売株式会社  
フクダ電子北関東販売株式会社  
フクダ電子西関東販売株式会社  
フクダ電子南関東販売株式会社  
フクダ電子東京販売株式会社  
フクダ電子東京西販売株式会社  
フクダ電子神奈川販売株式会社  
フクダ電子長野販売株式会社  
フクダ電子北陸販売株式会社

フクダ電子中部販売株式会社  
フクダ電子京滋販売株式会社  
フクダ電子近畿販売株式会社  
フクダ電子南近畿販売株式会社  
フクダ電子兵庫販売株式会社  
フクダ電子岡山販売株式会社  
フクダ電子広島販売株式会社  
フクダ電子四国販売株式会社  
フクダ電子西部販売株式会社  
フクダ電子南部販売株式会社  
フクダライフテック北海道株式会社  
フクダライフテック北東北株式会社

フクダライフテック南東北株式会社  
フクダライフテック新潟株式会社  
フクダライフテック常葉株式会社  
フクダライフテック関東株式会社  
フクダライフテック東京株式会社  
フクダライフテック横浜株式会社  
フクダライフテック長野株式会社  
フクダライフテック北陸株式会社  
フクダライフテック中部株式会社  
フクダライフテック関西株式会社  
フクダライフテック南近畿株式会社  
フクダライフテック兵庫株式会社

フクダライフテック中国株式会社  
フクダライフテック四国株式会社  
フクダライフテック九州株式会社  
フクダライフテック株式会社  
フクダインターベンションシステムズ株式会社  
フクダメディカルソリューション株式会社  
株式会社フクダ電子多賀城研究所  
株式会社フクダ物流センター  
フクダ電子技術サービス株式会社  
株式会社フクシン  
株式会社エム・イー・タイムス

## 株主メモ

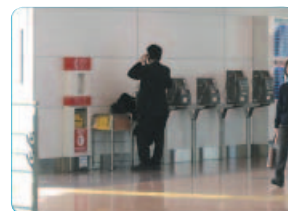
決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月開催
利益配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
基準日	毎年3月31日 そのほか、必要ある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞
貸借対照表および 損益計算書掲載の ホームページアドレス	<a href="http://www.fukuda.co.jp">http://www.fukuda.co.jp</a>
1単元の株式の数	100株
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) 0120-175-417 (24時間対応) (その他のご照会) 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>
同取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

### 羽田空港にAED導入

フィリップス社製のAED(自動体外式除細動器)ハートスタートFR2を  
第1、第2旅客ターミナルおよび国際線ターミナルに50台設置



写真提供：日本空港ビルデング



### 突然の心停止から生命を守る AEDシステム

突然の心停止には、すばやく適切な処置が絶対に必要です。羽田空港のAEDシステムの近くには防災センターに直接アクセスできるSOS電話が設置されており緊急時の速やかな対応を実現いたします。